まつい 愛 県議会レポート

《No.10 2026 冬号》

山形県山形市天神町 157　TEL/FAX　023-609-9541
E-mail　matsui.ai.1828@gmail.com
発行人：山形県議会議員　松井　愛

新しい年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。今年は、60年ぶりの丙午（ひのえうま）の年です。「火」や「陽」の性質を持つとされ、非常にパワフルなエネルギーを持つ年だそうです。変化や前進の力を秘めた年とされるこの一年が、みなさまにとって実り多い、よき一年となるよう願っております。

また、私にとって今年は県議会議員1期目の任期最終年にあたります。これまで地域の声に学び、現場第一で活動してきた歩みを大切にしながら、その集大成の1年として、課題解決に全力で取り組んでまいります。

今後とも率直なご意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年12月定例会

12月2日（火）～12月19日（金）までの18日間、12月定例会が開催されました。代表質問や一般質問、予算特別委員会での質疑、各常任委員会での審査を経て、令和7年度一般会計補正予算をはじめとした上程議案がすべて可決されました。（12月補正予算の概要はP2をご覧ください）

一般質問に立ちました

12月8日（月）、県議になって3度目の一般質問に立ちました。

この日は、ママ友をはじめ、教育関係者、各種当事者団体のみなさんなど、本当に多種多様な方々が傍聴に足を運んでくださいました。日頃から地域や子どもたちのことを思い、現場で奮闘されている方々に見守られながら質問に立てたことは、私にとって大きな励みとなりました。

とりわけ、質問の中で触れた平和への思いについて、「戦争のない社会について、改めて考えるきっかけになった」といった感想を寄せていただけたことを、大変嬉しく思っています。一つひとつの言葉が、誰かの心に確かに届いたのだと感じ、議場で発言する責任の重さと意義を改めて実感したところです。

今回の傍聴を通じて、県政に関心を持ち、自分ごととして議会を見つめてくださる方が確実に増えていることも強く感じています。これからも、県民の声に耳を傾け、思いを丁寧に県政へ届けていけるよう、真摯に取り組んでまいります。

（質問項目と答弁は次ページをご覧ください）

県立高校入学者選抜におけるICT機器を利用した合理的配慮の導入が実現！

この度の一般質問において、教育長より「令和 8 年度の県立高校入学者選抜から ICT 機器を利用した合理的配慮、いわゆるタブレット受験を導入する」との答弁を得ることができました。学びの連続性を保障し、適切に学力を確認するための大きな前進です。私はこれまで、書字障がいや読字障がいなどの学習障がいを抱える子どもたち・保護者のみなさんとともに声を上げ、市教委・県教委への対話と働きかけを行ってきました。小中学校ではタブレットを活用しながら、入試で活用ができない状況を変えたい――その思いを持ち続け、約10年かけてようやくたどり着いた一歩です。一方で、タブレット受験という合理的配慮を望みながら叶わなかった方々がいることも事実です。私はそうした方々の涙を、これからも決して忘れません。これまで地道に取り組んでこられた方々に敬意を表すとともに、誰もが学び続けられる教育環境の実現に向け、今後も取り組みを進めてまいります。

一般会計 令和７年度１２月補正予算額
641 億 8,700 万円（令和７年度１２月補正後累計予算額 7,491 億 3,700 万円）

～県民・事業者に対する物価高騰対策、防災・減災、国土強靱化等の緊急対策～

（◎…物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金充当事業　◇…その他国庫補助事業　新…新規事業）

1 物価高騰の影響を受ける生活者・事業者への支援 7,260 百万円

(1) 生活者 1,796 百万円

◎ 一般家庭等におけるＬＰガス料金の負担軽減への支援（2,000 円 × 利用世帯）579 百万円
◎ 低所得世帯への冬季の灯油購入費等の臨時的な支援 188 百万円
◎ 市町村が取り組む地域経済活性化に資するプレミアム商品券等発行事業への支援
（各市町村：1,000 円 × 人口）1,030 百万円

(2) 事業者 5,464 百万円

【学校施設】

◎ 私立高校等の物価高騰への支援（生徒数 ×2,100 円）21 百万円
新◎ 私立大学・短期大学の物価高騰への支援（学生数 ×3,000 円）9 百万円

【医療機関・社会福祉施設】

◎ 医療機関の物価高騰への支援　366 百万円
◎ 社会福祉施設の物価高騰への支援　661 百万円
新◇ 医療機関の賃上げ・物価上昇への支援（有床診療所、無床診療所・歯科診療所、保険薬局、訪問看護ステーション）※「病院」は国から直接支援 547 百万円
新◇ 介護職員等の処遇改善への支援（介護サービス事業所、障害福祉サービス事業所）2,271 百万円
新◇ 介護施設等の食料品購入費等への支援（入所系介護施設：定員 ×12 千円）226 百万円

【中小企業等】

◎ 特別高圧で受電している中小企業等の電気料金高騰への支援　23 百万円
◎ 酒蔵が用いる原料米価格高騰への支援　178 百万円
新◎ 食品製造事業者が用いる県産加工用米価格高騰への支援　170 百万円
新◎「2026 年に行くべき世界の旅行先 25 選」選出を契機としたインバウンド拡大に向けた情報発信の強化 14 百万円

【農林水産業】

◎ 施設園芸農業者の燃油価格高騰への支援　93 百万円
◎ 物価高騰等の影響で更新が進まないスピードスプレーヤ導入への支援 121 百万円
◎ 畜産農家の飼料価格高騰への支援 714 百万円

2 防災・減災、国土強靱化の推進（公共事業）52,483 百万円

(1) 土木公共事業 34,257 百万円

◇ 道路（橋りょう等の長寿命化対策、地域間の交流・連携強化のための道路改良、通学路の安全確保を図るための歩道整備等）18,364 百万円
◇ 河川（最上川水系流域治水プロジェクト等に基づく河川整備、ダム管理設備の更新等）10,875 百万円
◇ 砂防（土砂災害防止のための砂防えん堤や地すべり防止施設の整備等）3,248 百万円

(2) 農林公共事業 18,194 百万円

◇ 耕地（生産効率の向上を図るための区画整理・用排水施設整備、防災減災対策の強化に資するため池整備等）15,829 百万円
◇ 林務（木材安定供給のための林道整備、土砂流出に備えた治山工事等）1,838 百万円

Q&A 一般質問における質疑

■戦争の惨禍を次世代に継承していくことに対する所感について

Q、今年、戦後８０年という節目を迎える中、知事は本県を代表して、沖縄で執り行われた慰霊祭に公務として参列された。戦争の記憶を風化させず、次世代へ継承していくことについて、知事の考えはどうか。

A、私たちが今日享受している平和と安寧は、先人たちの尊い犠牲と苦難の歴史の上に築かれていくということを深く心に刻み、衷心より敬意と感謝の思いを表したい。県では、戦後８０年という節目の年に当たり、本年度次世代に継承していく新たな取り組みとして、慰霊祭への高校生の参加や小学生対象のワークショップなどを行ってきたが、今後も戦争の記憶を風化させることなく、平和の尊さを次の世代、またその次の世代へと継承していけるよう、時代を担う若い世代と一緒にしっかりと取り組んでいく。

■包摂性・寛容性の高い地域づくりの推進について

Q、ジェンダーバイアスが根強い地域からは、若年女性が流出する傾向が全国的に指摘されている。県は、包摂性・寛容性の高い地域づくりの推進に向けた様々な取組みを進めているが、今年度の状況はどうか、また、今後どのように取り組むのか。

A、将来にわたり活力ある地域社会を維持していくためには、個人として尊重され、支え合う社会の実現を図っていくことが重要である。アンコンシャスバイアスや固定観念はジェンダー平等の妨げや生きづらさにつながり、女性や若者が地元を離れる一因とも言われている。現在策定中の次期男女共同参画計画に、固定的な性別役割分担意識やアンコンシャスバイアスの解消、性の多様性への理解促進や相談体制の整備をしっかりと位置付けて、取組を前に進め、誰もが自分らしく輝いて暮らしていける山形県をめざす。

■発達障がい児の保護者への支援について（健康福祉部長）

Q、ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）・ＡＤＨＤ・ＬＤなど、発達障がいを持つ子どもの保護者が抱える不安や孤立の現状について、県としてどのように把握しているのか。また、保護者が効果的な関わり方を学べる講座や研修、相談支援の充実や、地域差の解消について、県の方針はどうか。

A、発達障がい児の保護者は、我が子の育てにくさに向き合い、その結果、不適切な療育や家庭内での虐待につながる可能性があることから、療育環境改善のための保護者への支援も大変重要である。保護者の支援は市町村でも取り組んでいるが、支援内容に地域差がある状況。県保健所による市町村職員等を対象とする支援者養成講座などの機会を捉え、保護者支援の理解とさらなる支援体制の充実などを行うとともに、保護者が不安や孤立を感じることがないよう、保護者に寄り添った丁寧な支援に取り組んでいく。

■子ども・若者の性被害防止のための取組みについて

Q、スマートフォンの普及に伴い、盗撮や画像売買、ＳＮＳを介した性被害など、新たなリスクが急増している。相談支援の中核機関であるやまがた性暴力被害者サポートセンター「べにサポやまがた」の周知や出前講座の拡充、さらに学校や地域との連携強化をどのように進めていくのか。

A、学校現場で性暴力被害への対応等に苦慮しているとの声に応えるため、今年３月、必要な対応を整備したハンドブックを作成し、教職員の研修資料として活用している。県内全ての小中高等学校に配布した。子ども・若者の性被害防止に向けて、学校現場や関係機関との意見交換、性被害等に遭った方が迅速に相談できる体制づくり、学校や社会教育施設等へのリーフレットの配布やホームページ、SNS 等の活用による周知、出前講座の拡充などに取り組み、「べにサポやまがた」の周知、機能強化に努める。

■子どもたちへの質の高い文化芸術活動の供与について

Q、山形交響楽団が続けてきた「山響スクールコンサート」だが、文化庁の補助事業の見直しにより支援がゼロとなる見通しだ。未来を担うすべての子どもたちに、「山形に生まれ育ってよかった」と思える質の高い音楽体験を提供するため、事業継続に向け支援を強化すべきと考えるがどうか。

A、県ではこれまで山響が公益法人として本県の文化振興等に果たしている役割を踏まえ、活動全般に対する支援を行ってきた。スクールコンサートの継続が厳しい現状であることも承知しており、教育局と連携し支援の検討を進めている。子どもの頃から地域に根差した文化に触れることは、山形への愛着と誇りを育み、次の山形を担う人づくりにつながるものであることから、県内の子どもたちが等しく音楽文化に触れることができる環境維持と、全国に誇るこのスクールコンサートの継続に向けて取り組んでいく。

■多様な社会資源を活用した子どもの居場所と学びの場の確保について

Q、不登校や学校に行きづらさを抱える子どもたちが、図書館や公民館など公共施設を学びの場として積極的に活用すべきと考えるがどうか。また、「不登校」という概念にとらわれず、多様な学びを認める視点をどのように教育行政に根付かせていくのか。

A、市町村の教育支援センターや民間によるフリースクール等につながっていない児童生徒が学ぶ場として、図書館などの公共施設が有効である場合もある。今後は、児童生徒や保護者に対し図書館等も含めた様々な学びの場について情報提供するとともに、これらの施設側が適切な応対ができるよう周知していく。児童生徒が学校以外を学びの場とすることも肯定的に捉え、社会全体で支えていく気運を醸成しながら、個性に応じた様々な学びがあるという視点を教育現場に浸透させていく。

（次ページへ）

（前ページより）

■県立高校入学者選抜（入選）におけるＩＣＴ機器を利用した合理的配慮の実施について

Q、発達障がいなど多様な特性を持つ児童生徒にとっては、タブレット等ＩＣＴ機器の活用が重要な役割を果たしている。子どもたちの能力を最大限発揮できる環境を整えるため、県立高校入選におけるＩＣＴ機器を利用した合理的配慮を実施すべきと考えるがどうか。

A、タブレット等のＩＣＴ機器の利用については既に実施している先進県の取り組み等を参考に研究を進めてきた。予測変換やインターネットによる情報検索の機能を使用しない設定にし、公平性を確保できることも確認した。これらを踏まえ、今年度末の県立高校入学者選抜から、これまでの合理的配慮に加え、タブレット等を含むＩＣＴ機器の利用についても実施することとした。入学者選抜における合理的配慮を実施することにより、障害のある生徒が高校教育を受ける機会をできる限り保障していく。

■コンテンツ産業の育成方針について

Q、若者の県内定着や新たな雇用創出を図るためには、従来型の産業振興策に加え、時代の変化に即した新しい視点が求められる。東北芸術工科大学をはじめとする地域のクリエイティブ人材を活かし、アニメや映像、デザインなどのコンテンツ産業の育成を進めるべきと考えるがどうか。

A、本県にはクリエイティブ分野を志す学生が全国から集まる東北芸術工科大学があり、毎年多数のクリエイターを輩出しているものの、コンテンツ関連産業は首都圏に集中しているため卒業生の約 8 割が県外に就職している。芸工大との連携を一層強化し、実際の制作現場の体験機会の創出など、人材の発掘・育成支援に取り組むとともに、コンテンツ関連企業の誘致や創業にも力を入れていく。若者が県内で活躍できる場の創出・拡大を図りながら、コンテンツ産業を新たな核とした産業振興に取り組んでいく。

生徒による販売実習「mara マルシェ in 山形県議会」

身近な県議会を目指す取り組みのひとつである「生徒・学生による発表の場」として、１２月１０日（水）、議事堂ロビーにて山形県立酒田光陵高等学校ビジネス流通科の生徒たちによる障がい者就労事業所等製品の販売実習が行われました。焼きたてのカステラやクッキー、ハンドメイドクラフトなどがずらりと並び、買い物に訪れた方々でロビーは大賑わい！議会開会中とあって、私を含めたくさんの議員たちがマルシェを訪れ、実習の現場を調査するとともに、生徒や先生たちと意見交換をさせていただくことができました。

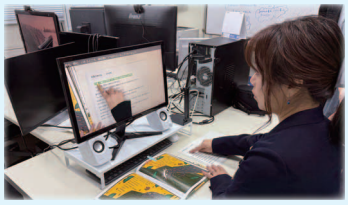
現場の声を県へ！課題解決を求め要望書を提出

緊急的なクマ対策の実施を求める要望

設置と音響式信号の設置、耳で聴くハザードマップの導入を要望

新年度予算編成に向けた政策提言

ディスレクシア（読字障がい）支援の研究を調査



山形県立産業技術短期大学にお伺いし、知能電子システム科の 2 年生が取り組んでいる「ディスレクシア（読字障がい）支援」の卒業研究についてお話を伺ってきました。ディスレクシア（読字障がい）は、知的能力に遅れはないものの、脳の機能に起因して文字の「読む・書く」に困難を抱える発達障がい（学習障がい）の一種です。「文字を音に変換できない」「文字が歪んで見える」といった困りごとを抱えており、ICT 機器の活用が課題解決への鍵となります。研究を進めている学生たちからのお話では「自分の書いた文章をみんなの前で読みたくても読めないディスレクシアの子どもを支援したい」というのが研究のきっかけだったとのこと。実際に学生たちが考案したシステムを体験させていただくと、指で文章の読みたい箇所を指示するとディスプレイに指示した文章が表示され、パソコンから音声が流れるというものでした。現在、関係者との意見交換や実験を重ね、より良いシステムになるよう研究を進めているそうです。さまざまな困りごとを解決するために、学生たちが仲間たちと真剣に取り組んでいる姿と尊い志に、胸が熱くなりました。このように、学生たちのポテンシャルを引き出し、花開かせることができるような教育環境の充実に向けて、今後も精一杯取り組んでまいります。

県政へのご意見・ご要望等、お聞かせください。
まつい愛の活動を SNS 等で発信しております。

Facebook　(旧Twitter)　Instagram